

がんばれ大分 がんばろう大分人

「良友会」

公式ブログ <http://www.bocra21.jp/blog/>

良友会事務所 大分市六坊北町4485-5

Tel 097-545-3458

Fax 097-545-3477

メールアドレス kakashi@sweet.ocn.ne.jp

【発行責任者】井手口良一

良友会ニュース

～ みんなのまちづくり みんなでまちづくり ～



本日九月十一日九月議会の一般質問日程が終わりました。わたしは十日午前十一時から正午まで登壇し、四項目二十二細目について論議いたしました。そのいくつかについて、要点を報告いたします。

一、救急車の適正利用のための啓発活動

昨年度大分市消防局の救急車が運んだ患者さんの数は約一万五千人、そのうち救急車が必要でなかった軽傷者は約六千三百人、重傷者は二千百人でした。

家庭や家庭を取り巻く社会環境の変化などから、安易に救急車を呼んでしまったり、逆に救急車が必要なのに、遠慮してしまつて手遅れになる事案も発生しています。また、折角、自宅で息を引き取りたいと、在宅ホスピスを選択した末期がん患者の方が救急車の出動を要請すると、命を救うことが目的の救急隊員や救急病院で

延命治療を受ける事になり、かえつて患者さん自身の希望に沿わない苦痛を与える結果になります。日頃から救急車の適正利用について啓発するとともに、救急相談センターの業務を充実させて、市民の安心に寄与することを提案しました。

二、学校における子ども達の熱中症予防対策

今年の猛暑で、学校で一学期中に授業中に熱中症を発症した子ども数は、小学校で929名、中学校で308名、夏休み中の部活動中は77名、内剣道部員1名が救急搬送されています。大分市教育委員会では、年度当初と六月に熱中対策のための注意喚起を行っています。

たまたま、薬品会社を経営している友人から熱中症チエッカーという測定器具があることを教えてもらいましたので、それを議会で紹介し、速やかに全ての小中学校現場に導入するよう要望しました。

三、アナフィラキシー対策

市内の児童生徒の内、食物アレルギーなどでアナフィラキシー症状を引き起こしかねない子どもは小学生が60名、中学生が29名います。その子たちとは別にスズメバチに二度目に刺されると、アナフィラキシー・ショックを起こすことも知られていません。症状が出たら直ちにエピペンを処方する必要がありますが、医師の処方のもとに常時携帯している

子どももいますが、ショックで木を失った場合には、周りのだれかが代わりに投与してやる必要があります。そのための投与方法などを、医療機関・保護者・学校現場で情報の共有と周知徹底を図り、東京の調布市で起こったような子どもの死を防いでいきたいと思えます。



四、肉親を失った子どもへの悲嘆ケア

わたしは大分生と死を考える会の会員として活動しています。会の重要な活動のひとつに肉親を亡くされた方々の悲嘆ケアがあります。大人でさえケアが必要なのに、肉親を亡くした子ども達の悲嘆のケアを忘れてはならないと考えています。担任や養護教諭が子ども達に寄り添った声かけや見守りを行うとともに、必要に応じて専門スタッフによるカウンセリングを実施して、心のケアに努めています。

そのほかでは、美術館事業の今後についてや、上野子ども森内にあるチャイルドハウスの所管替え等についても、具体的な数字を聞きつつ、わたしなりの意見を述べました。詳しくは「市政報告」や「議会だより」議会のホームページ等をご参照ください。



五. 清掃工場のごみ処理コストの比較

大分市は福宗と佐野の2か所に清掃工場を有していますが、処理方法が違います。2清掃工場の処理コストを比較しますと、福宗はトン当たり14,266円、佐野は同じくトン当たり26,576円です。どちらの方式が有利なのかは一目瞭然です。